茨木市立　水尾小学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成２９年１０月作成

1 ３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自己肯定感の向上 ～集団づくりとコミュニケーション力の育成～	・小中合同授業研の実施 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの実践検証と、目指す子ども像の共通理解 ・人権学習においての共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行	・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・南中ブロックスタンダードの定着に向けての検証 ・人権学習においての共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討 ・連携通信の発行	・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施。 ・夏季小中合同研修会の実施 ・自己肯定感向上につながる南中ブロックスタンダードのさらなる検討、検証 ・人権学習においての共通理解 ・いきいきスクールの実施 ・研究授業や参観など、各校の行事の交流 ・英語教育の小中・小小交流 ・保幼小中カリキュラムの実践と検討、見直し ・連携通信の発行
確かな学力の育成	自ら学び、自ら考え、判断、行動し、よりよく問題を解決する力を育てる	○推進計画の作成 ○全職員の共通理解（研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成） ○３研究部会での校内研究授業・授業公開・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり（南中スタンダードの実践・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり） ○基礎学力の充実（習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等） ○思考力・判断力・表現力の育成（問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等） ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み（いきいきスクール・NET） ○読書活動の充実 （朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ）	○初年度の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解（研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成） ○３研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○わかる・楽しい・居場所がある授業・環境づくり（南中スタンダードの検証・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり） ○基礎学力の充実（習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等） ○思考力・判断力・表現力の育成（問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等） ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み（いきいきスクール・NET） ○読書活動の充実 （朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ）	○２年間の取組みの検証と計画の見直し ○全職員の共通理解（研究冊子「水尾の知恵袋」の活用・検証・見直し・次年度版の作成） ○３研究部会での校内研究授業・研修会の実施 ○自己肯定感向上につながる授業・環境づくり（南中スタンダードのさらなる検証、定着・ユニバーサルデザインの学校・授業づくり） ○基礎学力の充実（習熟度別授業・放課後学習教室・もくもくタイム・宿題がんばり週間の活用、学期毎の「学び方をふり返ろう」の実施、等） ○思考力・判断力・表現力の育成（問題解決学習の推進、全教科・活動での言語活動の充実、等） ○外国語活動を中心とした小中連携の取組み（いきいきスクール・NET） ○読書活動の充実 （朝の読書タイム・絵本のひろば・ペア学級での読み聞かせ）

豊かな人間性を育む	自己肯定感・自己有用感を高め、友だちと認め合える豊かな心を育てる	○つながりを大切にした授業づくり（子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師） ○系統性のある人権学習の取組みの推進 （ちがいやもちあじを認め合い豊かさに） ○6 年間の積み上げを大切にした取組み（人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ） ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳教科化へ向けての研究 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携	○つながりを大切にした授業づくり（子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師） ○系統性のある人権学習の取組みの推進 （ちがいやもちあじを認め合い豊かさに） ○6 年間の積み上げを大切にした取組み（人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ） ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とした道徳教育の研究・推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携	○つながりを大切にした授業づくり（子どもと子ども・子どもと教材・子どもと教師） ○系統性のある人権学習の取組みの推進 （ちがいやもちあじを認め合い豊かさに） ○6 年間の積み上げを大切にした取組み（人権週間、生活アンケート、平和集会、ペア学級、MJF、読み聞かせ） ○自己肯定感・自己有用感の育成 ○道徳の時間を要とし、教育活動全体を通じての道徳教育の推進 ○児童理解を深めるための家庭・地域・保幼小中連携
健康・体力の増進	心身ともに健康で、たくましく生きる力を育てる	○なわとび朝会（ペア学級） ○マラソン大会、ウィンタートレーニング（持久走） ○立命館大学と連携し、授業において短時間運動プログラムの導入。全学年体力テストの実施。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの提案 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成（養護教諭、栄養教諭との連携）	○なわとび朝会（ペア学級） ○マラソン大会、ウィンタートレーニング（持久走） ○立命館大学と連携した短時間運動プログラムを取り入れた成果を体力テストの結果を基に考察した上で必要な運動の積極的な実施 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成（養護教諭、栄養教諭との連携）	○なわとび朝会（ペア学級） ○マラソン大会、ウィンタートレーニング（持久走） ○前年度考察した児童の強み、課題を基に必要な短時間運動プログラムを行い、体力テストの結果の考察。 ○体力アップタイム等休み時間に子どもたちが体を動かすことを広げる取組みの推進。 ○運動量の確保やめあて、ふりかえりを大切にした体育の授業づくり ○体育用具の整備や体育版水尾小スタンダードの考察 ○校内研修の定期的な実施 ○健全な食生活を実践し健康を維持できる子の育成（養護教諭、栄養教諭との連携）
支 援 教 育 の 充 実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語Ａ

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

④言語事項

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

「漢字を読む設問→『申し込み期限』」

・もっとも正答率の低かった設問

「手紙の構成を理解し、後付けの位置について適切なものを選択する設問」

・もっとも無解答率の高かった設問

「漢字を書く設問　→『参加対象』

・もっとも無解答率の低かった設問

「話し合いにおける報告の説明として適切なものを選択する設問」

国語Ｂ

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった

②書くこと

概ね良好な結果であった

③読むこと

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

「同じ考えの人を説得するために引用する文章を選択する設問」

・もっとも正答率の低かった設問

「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめて書く設問」

・もっとも無解答率の高かった設問

「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめて書く設問」

・もっとも無解答率の低かった設問

「動画を見る目的として適切なもの選択する設問」

分析

・「国語Ａ」「国語Ｂ」ともに平均正答率は全国平均を下回ったが、各領域・問題形式でみたときには大きな差がでることはなく、全項目で「概ね良好な結果であった」となった。

・無解答率も「概ね良好な結果」ではあったが、全国平均と比較すると高い。選択式の設問での無解答率も高いので、自信がない場合には解答することに慎重になっていると考えられる。何事にも前向きに取り組むことや間違えをおそれず挑戦することを日頃から指導・支援していく必要がある。

・漢字の読み書き問題で正答率が全国平均を下回っている。新出漢字・既習漢字の定着に向けての学習を大切にしていきたい。

・「国語Ａ」の「読むこと」の設問や「国語Ｂ」の「書くこと」の設問では正答率が全国平均を上回る設問が多かった。

・「短答式」「記述式」問題での正答率が全国平均を下回った。国語科のみならずさまざまな授業の中で、「書く力」の向上を目指した取組みを今後も継続していく。

○●算数●○

算数Ａ

（領域ごと）

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
「リボンを２ｍ買ったときと３ｍ買ったときの代金を求める設問」
・もっとも正答率の低かった設問
「二次元表の合計欄に入る数を求める設問」
・もっとも無解答率の高かった設問
「二次元表の合計欄に入る数を求める設問」
・もっとも無解答率の低かった設問な
「リボンを２ｍ買ったときと３ｍ買ったときの代金を求める設問」「１２３×５２」「１０．３＋４」「６＋０．５×２」「重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ設問」（共に０．０%）

算数Ｂ

（領域ごと）

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

やや課題が残る結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
「示された考えを基に、５４－４５の場合で残る部分を図に表す設問」
・もっとも正答率の低かった設問
「与えられた情報から、基準量・比較量・割合の関係を捉え、近い値を選び、選んだわけを書く設問」
・もっとも無解答率の高かった設問
「仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める設問」
・もっとも無解答率の低かった設問
「カードの差が４の場合の２けたのひき算の式と答えを書く設問」

分析

・平均正答率は「算数Ａ」では全国平均よりわずかに下回ったが、「算数Ｂ」では全国平均を上回った。
・「算数Ａ」では「数と計算」「量と測定」領域、「算数Ｂ」では「量と測定」「数量関係」領域で全国平均を上回った。「算数Ａ」での「数と計算」領域での正答率の高さは、「もくもくタイム」等での計算問題の基礎基本の定着に取り組んできた成果が表れている。
・「図形」領域では「概ね良好な結果」ではあったが、他領域と比べると苦手さが伺える。具体物の提示や教材の活用、体験的な活動の取り入れなどで、「わかる」「楽しい」と感じられることを大切にしていきたい。
・無解答率は算数でも全国平均より高い。特に「算数Ｂ」では、全国平均より高くなり「やや課題が残る結果」となった。今後も習熟度別学習や少人数指導を進めたり、学習サポーター等を活用したりし、個別に支援できる体制を継続していく。さらに、すべての授業・教育活動において無解答を減らす取り組みを行う必要がある。
・２テストとも「選択式」問題では、平均正答率が全国平均を上回っているが、「短答式」問題では下回っている。問題解決型学習を通して、児童が考えを説明したり理由を考えたりする機会を保障すると共に、主体的に取組み、思考力・判断力・表現力をはぐくむことができる授業づくりを行っていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

Ｈ１９年の調査開始以来ずっと、平均正答率は全国平均を上回っていたが、今年度初めてわずかではあるが下回る結果となった。

特に今年度は無解答率が高く、全国平均の２倍であった。何事にも前向きに取り組む、間違えることをおそれず挑戦してみることを日頃から声かけしていきたい。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

全体的な傾向を見ると徐々に学力低位層が増加している。低位層の推移の移り変わりとエンパワー層の推移の移り変わりは似ており、エンパワー層の底上げが学力の底上げにつながると考えられる。主体的に参加し一人ひとりが意欲的に取り組める課題設定、自分の考えと友だちの考えをつなげ深め、自ら学びを振り返ることができる授業づくりを行っていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

○南中ブロックスタンダードを基本とした授業のユニバーサルデザイン化の実践を行う。
- 落ち着いて学習に取り組める環境づくりのために、教室の環境整備を行い、授業の準備をきちんと整えさせる。
- チャイム着席や授業はじめとおわりのあいさつなどの授業規律を大切にする。
- どの子も分かる、学び合いのある授業づくりのために、課題・めあて・学習の見通し・内容の明確さ、学びの振り返りなど学習時間の構造化を推進する。
- 学習の協働化・共有化を図るために、ペアやグループ活動など、友だちと話し合う時間をもち、互いの意見を交流するなかで考えが深まるようにしていく。
- 視覚教材や具体物を活用し、体験的に学べる授業づくりを行う。

○１～６年までの系統立てた学習活動を推進していく必要がある。そのために教職員間での取組みの共通理解を図り、校内研修での授業力の向上を目指していく。

○学力向上に向けては、児童が安心して学習できる居場所が大切である。そのためには、普段の人間関係づくりや集団づくりが大切になる（みずおの「み」の「みんな仲良く」）。一人ひとりを大切にする人権教育を推進していく。

○基礎学力の充実のために、今後も習熟度別学習や少人数分割指導を行うと共に、学習サポーター等との連携や、授業中の人的支援の有効な活用を進め、個別に支援できる体制を継続して行っていく。

○「朝学（朝の学習時間）」や「もくもくタイム」などで基礎基本の反復練習を重ねるなど、習熟できずに終わってしまう児童への細やかな対応や取組みを行う。

○「宿題がんばり週間」などを活用し、家庭学習の確認を続け定着を図ると共に家庭との連携も強めていく。

○毎学期の「学び方をふりかえろう（自己評価）」で、自分の学習への向き合い方を見つめなおさせ、学ぶ意欲を高めさせ、家庭へも個人懇談で啓発させる。

○問題解決型の学習を行い、主体的に課題に取り組み、思考力・判断力・表現力がはぐくめるような授業をつくっていく。また、考えをつなぎ、深めるために、ペアやグループでの交流、全体での練り上げを大切にしていく。

○学んだ成果が見られる丁寧なノートづくりにつながる指導を行う。

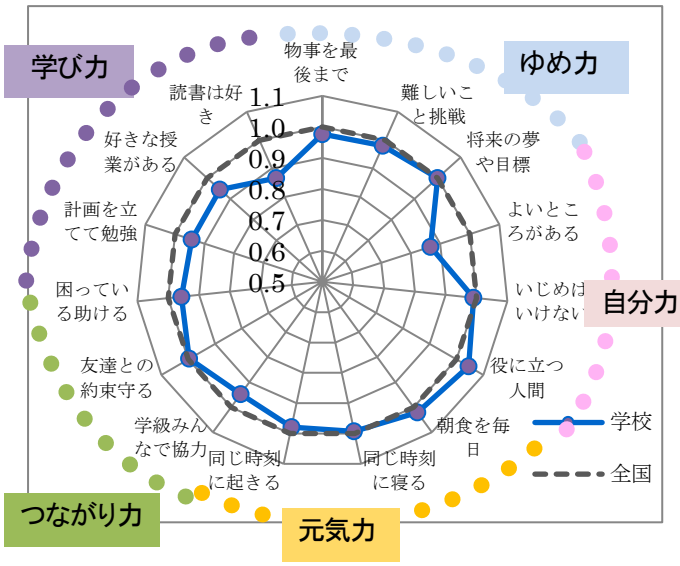
○授業の最後の振り返りを自分のことばでまとめることで、学習の自己評価を行うとともに、「書くこと」にもつなげていけるようにする。

○「読書が好き」「楽しい」と実感することで「読むこと」への意欲を高めていきたい。そのために「朝の読書タイム」や「読み聞かせ」「絵本のひろば」などの取組みを継続していく。

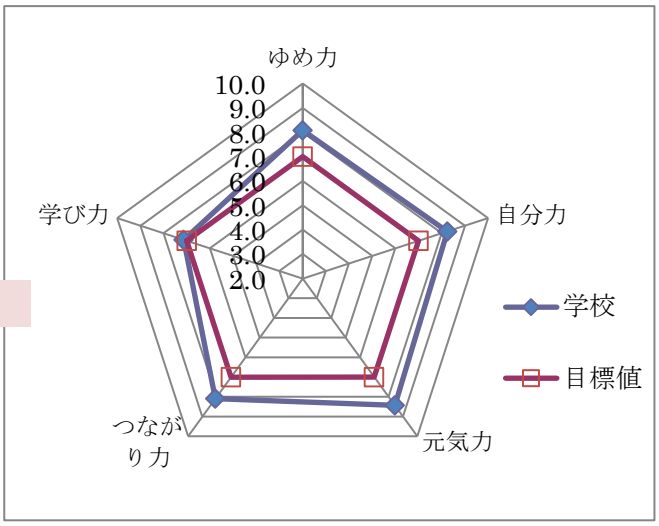
○無解答率を減らしていくために、何事にも前向きに取り組む、間違えることをおそれず挑戦してみる、諦めずに問題と向き合うなどを常日頃から声をかけ続ける。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



分析

設定目標値の「７．００」は５つの力全てで上回っている。

ゆめ力について

「将来の夢や目標をもっている」は全国平均と同じであるのに対し、「ものごとを最後までやり遂げる」「難しいことでも挑戦」がやや下回る。夢や目標の実現のためには何事にも一生懸命取り組むことが大切であることを伝え、やり遂げた達成感を感じられるような取組みを進めていく。

自分力ついて

「役に立つ人間になりたい」と将来的への希望はもっているが、今の自分には「よいところがない」と思っている傾向が伺える。日々の中で自己肯定感を高め、自己有用感を感じられる取組みを行い、教師の声かけなどの指導・支援のあり方を見直していかなければならない。

元気力について

「朝食を毎日食べる」は全国平均を上回っている。ただ「毎日同じ時刻に寝る」が全国平均を下回っており、「毎日同じ時刻に起きる」はさらに下回っている。規則正しい生活が体力だけでなく学力の向上にもつながるということの家庭への発信をさらに行っていく必要がある。

つながり力について

「学級みんなで協力して何かをやり遂げてうれしかった」「人が困っているときは助ける」の項目が全国平均をやや下回っている。「できた」「やってみてよかった」「友だちのおかげで」「一緒だからこそ楽しかった」といった経験を積み重ねられるような授業や活動を計画的に行っていかなければいけない。

学び力について

・５つの力の中で一番全国比が低い。特に顕著なのが、「読書は好き」である。経年で見ても平均を下回ることが多い。取組み内容や取組み方についての見直しが必要である。

・「好きな授業がある」や「自分で計画を立てて勉強する」も下回った。言われたことや出された宿題だけでなく、自主学習に取り組むことや目標をもって進んで勉強することの大切さも伝えていきたい。

取組み

いろいろな人とつながり、自分も他者も尊重できる子どもを育て、規律を守り、互いの個性を高め合う集団づくりをめざすため以下の取組みを行っていく。

・集団づくりや人間関係づくりを含んだ人権教育の視点を大切にした授業づくりを進め、子ども同士のつながりを深めていけるようにする。
（お互いの良さや違いを認め合える仲間関係づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼し合える学級づくり等）

・系統性のある人権学習の研究を行い、出会いや参加・体験を大切にした実感のある人権学習を進めていくなかで、ちがいやもちあじを認め合いそれを豊かさにできるような人権感覚を育んでいく。

・人権週間の取組み、各学年に応じた平和教育や「平和集会」で交流、ペア学級での異学年交流、MJF（水尾児童会フェスティバル）など６年間の積み上げを大切にした取組みを今後も継続していく。

・自己肯定感を高め合えるような子ども同士のかかわりや自己有用感を感じられるような活動を意識的・計画的に取り入れていく。

・生活アンケートを実施（年３回、毎学期）し、集団づくりに活用する。

・規範意識を高めるためにきまりの徹底や長期休暇前の生活指導等を行い、規律ある学校づくりを進める。

・児童理解を深めるために家庭との日常的な連携を大切にしていくとともに、地域や保幼小中との連携も図っていく。

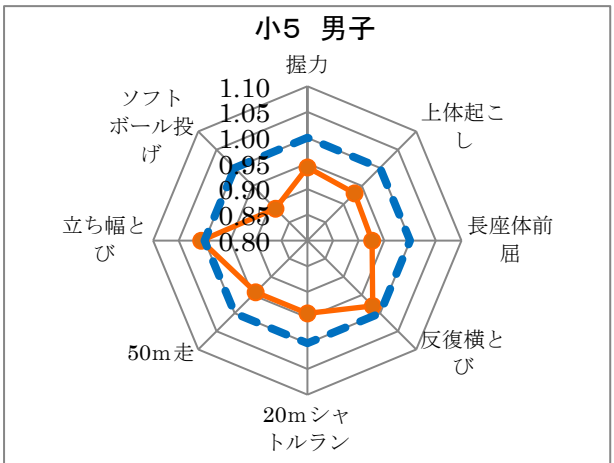
・道徳教育の充実を図るための研究を行っていく。

・学力、人権、支援の校内研修に加え、体力、情報、図書などさまざまな研修を実施し、教職員の意識向上を図る。

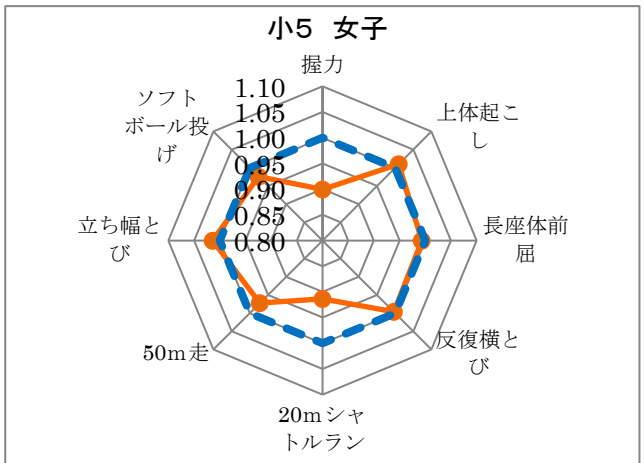
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

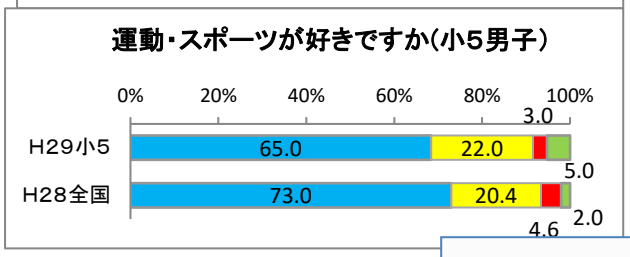
○●体力●○

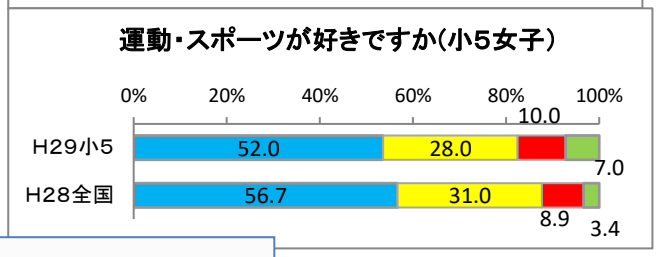
男子（小5）



女子（小5）







分析

・小学５年男子では、立ち幅とびを除く項目で、全国平均を下回っている。反復横とび以外の項目が特に低くなっている。

・小学５年女子では、全国平均に近い項目が多くなっているが、握力と 20mシャトルランが平均を大きく下回っている。

・男子、女子両方の課題として、握力と 20mシャトルランが挙げられる。立ち幅とびについては、全国平均をやや上回っている。

取組み

・立命館大学スポーツ健康科学部指導のもと、毎授業の準備運動で短時間プログラム（ジャンプ、柔軟など立ち幅跳びや長座体前屈などにつながる動き）を取り入れる。
　また、講師として招き、体つくり運動についての校内研修を行う。

・全学年スポーツテストを実施する。

・「茨木っ子運動」を全学年で実施し継続していくことで、体幹を鍛えるとともに、姿勢保持にもつなげていく。その上で、課題である筋力、瞬発力、柔軟性の改善に努めていく。

・体力アップタイム（体育の用具を使った休み時間の活動）やなわとび朝会、ウィンタートレーニングなどの、全校での取組みも継続して行っていく。

・教師の授業力向上のため、校内自主研修会を積極的に実施していく。（茨木っ子運動、短時間プログラム、着衣泳等）

・年間カリキュラム、体育のスタンダードを作成・活用し、系統性のある授業ができるよう教職員間で理解を深める。

・体育の授業の中で、休み時間につながる運動遊びを子どもたちに教え、休み時間に運動場に出て、体を動かすことができるように促していく。

・体育用具を整備し、より使いやすく、準備や片付けがスムーズにできるようにし、授業中の運動量の確保や充実した学習へとつなげていく。

・握力、投力をつけることのできるような取組みを考えていく。

・栄養教諭や養護教諭とも連携し、食生活や健康を維持することの大切さを伝えていく。